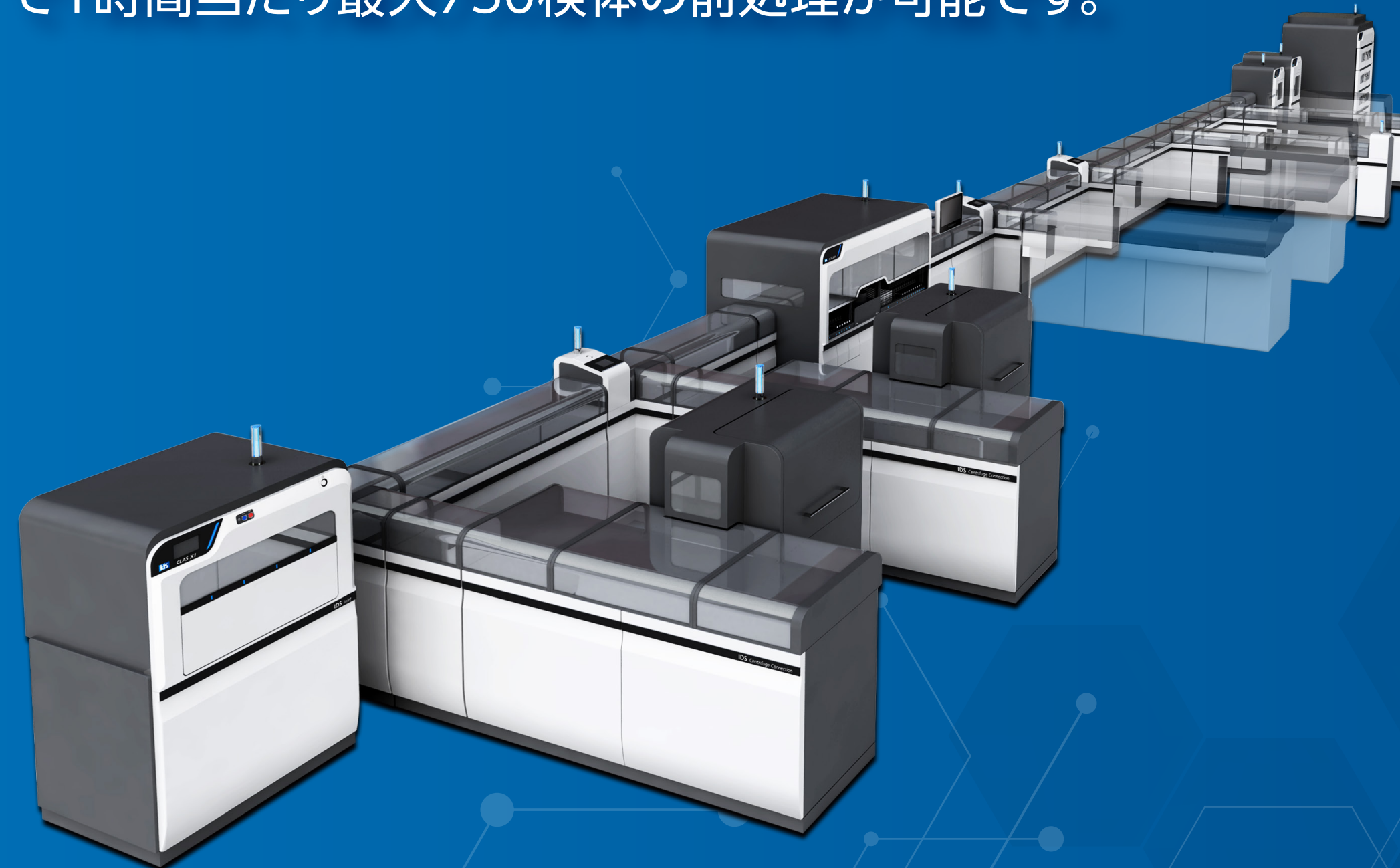


04 アイディエス 検体搬送システムの構成

当社で開発・製造している検体搬送システムの構成ユニットを紹介いたします。

ここで紹介するのはIDS-CLAS X-1です。ユニットの組み合わせで1時間当たり最大750検体の前処理が可能です。



04

1 バルクローダー



投入口へ直接投入された検体を搬送ラインに流します。

2 搬入搬出ユニット



検体搬入と検体搬出の両方が可能です。

3 搬入ユニット



搬送ラインに検体を流します。

4 マニュアル搬入ユニット



投入が必要な検体を1本ごとに投入できます。

04

5 開栓ユニット



検体の栓を外します。

6 遠心機



検体を遠心し、血清と血餅に分離します。

7 閉栓ユニット



検体にキャップを取り付けます。

8 搬出ユニット



搬送ラインから検体を搬出します。

04

9 ストレージ



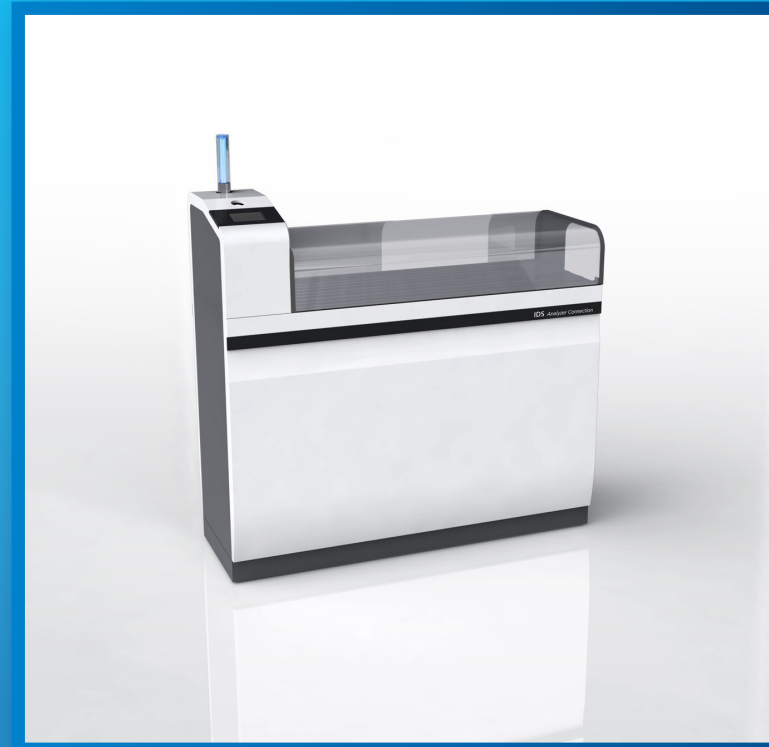
処理済みの検体を保存します。

10 入出庫レーン



ストレージからの検体取り出しと再投入ができます。

11 分析装置接続ユニット



検査に応じた分析装置に検体を接続します。

12 IDS-CLAS 3600



搬入、開栓、分注、搬出の全ての機能を兼ね備えた分注装置です。

04

13 ベルトレスコンベア



I、T、L、H、U字型レーンがあります。

検体搬送システムは、このように多くのユニットで構成されています。この検体搬送システムに各種分析装置が接続され、検体検査を含む一連の工程が自動化されます。

各施設の要望に沿ってユニット構成は変わりますが、業務負担の軽減、検体動向の確認、検査報告時間の短縮、検体管理ミス防止対策、検査業務の標準化など迅速な検査結果報告に役立っています。